

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	秋田大学	申請大学長名	吉村 昇
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	小川 信明
整理番号	001	プログラムコーディネーター名	柴山 敦
プログラム名	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### 【プログラムの目的】

本プログラムは、資源の専門性と応用力、実践力を修得したグローバルリーダーの育成を目的とし、近年勃発したレアアース問題や資源の偏在性、生産環境の悪化といった21世紀の資源開発が抱える課題に俯瞰力をもって挑める人材、すなわち資源分野を牽引する総合力と専門知識を備え、英語力、異文化理解力を含めた国際的視野と独創性豊かな考察力、課題解決力、資源リテラシー、政策立案能力等を身に付けた「資源ニューフロンティアリーダー」を養成する。

#### 【大学の改革構想】

秋田大学では、資源学教育の重点化と教育研究プログラムの強化を行い、我が国を代表する資源学教育研究拠点を形成している。国際的な活動では大学院の英語コース化や海外協定校からの積極的な留学生確保を推進しているほか、平成26年度には「国際資源学部」の新設を成し遂げ、リーディング大学院と直結する教育研究基盤を構築している。これら資源学教育に関する戦略的な取組は、「資源分野におけるナショナルセンター機能を強化し、世界で活躍するグローバル人材を、実践力・応用力・英語力を兼ね備えて育成する」ことを主旨とした秋田大学の改革構想を具現化したものと言える。

## 2. プログラムの進捗状況

平成25年度までにプログラム運営委員会、統括会議、各WGをはじめとする組織体制、運営体制を整備・構築し、基本的な要項・細則を策定することでプログラムの基盤構築を終えた。具体的には、プログラム運営委員会を中心に定常的な管理・運営、事業推進を行ったほか、プログラムの推進及びコーディネート業務を担う特任教員の採用や、プログラム事務局員を採用するなど運営体制を強化・拡充した。また平成25年4月より教育カリキュラムを本格的に始動し、プログラム専門・共通47科目のうち32科目を開講したほか、ラボローテーションや国内外フィールドワーク（モンゴル・スウェーデン）等の実践的な教育を実施した。特別講義においては、企業による資源学リテラシー講義や、海外の著名な研究者によるグローバル資源学特論といった最新の資源情報を提供する講義を実施した。一方、学内説明会などを実施し学生確保に努めたほか、平成25年4月と10月に入学予定の学生を対象にコース生選抜試験を実施した結果、新たに7名の学生が加わるなど合計10名がプログラムに在籍することになった。また、博士後期課程への中間審査(Qualifying Examination)として、口頭・筆記試験や研究プレゼン、在学中の成績をGPA化した進級試験を行い、平成26年度から新たに4名の後期課程学生が在籍するなど優秀な学生の育成と質の保証に関する取組を行った。コース学生に対しては、プログラム独自の奨励金制度を構築し、5名のコース学生に支給を開始したほか、若手チャレンジ&イノベーション制度による研究費支援を3件行った。また、学生が主体となった月例発表会を開催し、研究の進捗状況を定期的に確認する機会を設けた。教育活動の一貫としてシンポジウムや国際ワークショップ等を開催したほか、プログラム担当者がインドネシア、フィリピン、モンゴル、ボツワナ等を訪ね優秀な学生獲得のためのプロモーション活動を行った。広報物として新たにパンフレット（日・英語版）や、ニュースレターの定期刊行、他にも学生募集のチラシを作成し、本プログラムに関連する国内大学に送付するなど積極的な情報発信を行った。

評価体制としては、自己評価のほか平成26年3月に外部評価委員会を実施し、日本人学生の獲得や開設科目の充実などが指摘されたが、これらの項目については次年度以降の課題や改善点として検討を進めることにした。